

農
會

一九四

本年度中縣農會ニ於テ執行セル事業ノ概要左ノ如シ

普通農事ノ指導獎勵

普通農事ノ指導獎勵ニ關シテハ前年度來ノ方法ヲ踏襲シ農作物ノ栽培施肥病虫害驅除豫防方法收穫乾燥等ニ就キ隨時技術員ヲ派遣シ實地ニ講話ニ夫々指導獎勵ヲ加ヘ縣廳米穀検査所郡役所ト連絡ヲ取り相呼應シテ郡市町村農會ハ勿論一般當業者ヲ鼓舞獎勵シ專ラ斯業ノ改良發達ニ努メタリ而シテ其結果ニ就テハ數字ヲ以テ具体的ニ説明スルガ如キハ不可能ナリト雖モ當業者ハ漸次舊套ヲ脱シ漸ク斯業改良ノ實績ヲ舉グルニ至レリ

稻原種田ノ經營

稻ノ純正ナル優良品種ノ普及統一ヲ圖ルノ目的ヲ以テ明治四十四年度ヨリ縣立農事試驗場ニ以テ玉造郡西大崎村下野目ニ稻原種田ヲ設置シ生産種糲ヲ各郡市採種田用原種トシテ各郡ニ配付シ來リシガ大正三年度縣立農事試驗場ノ廢止ニ伴ヒ縣農會ニ於テ其事業ヲ繼承スルコト、シ縣ヨリ金千圓ノ補助ヲ得テ玉造郡西大崎村所在原種田ヲ直營スルノ外ニ本會監督ノ下ニ刈田郡白石町ニ刈田郡農會委托原種田ヲ設置シ事業ヲ執行セリ其作付品種反別收穫高各郡市農會配付數量ハ左ノ如シ

直營原種田		(玉造郡西大崎村)			
品種名	作付反別	原種收穫高	各郡市農會配付數量	交付數量	其他へ無償量
東月松	二	二,000	六,八九〇	四,660	一,905
島谷坊	二	二,015	二,720	二,440	270
松赤	二	二,025	一,330	一,330	0
松ノ坊	二	二,030	四,035	三,750	280
稻河澤	二	二,035	五,925	五,625	300
稻毛主	二	二,040	六,660	六,660	0
稻尾	二	二,045	一,330	一,330	0
稻澤	二	二,050	一,660	一,660	0
稻山谷	二	二,055	一,660	一,660	0
稻後	二	二,060	一,660	一,660	0
稻元	二	二,065	一,660	一,660	0
稻豐	二	二,070	一,660	一,660	0
稻岩	二	二,075	一,660	一,660	0
稻賀	二	二,080	一,660	一,660	0
稻本	二	二,085	一,660	一,660	0
稻吉	二	二,090	一,660	一,660	0
稻郡	二	二,095	一,660	一,660	0
稻要	二	二,100	一,660	一,660	0
稻望	二	二,105	一,660	一,660	0
稻岩	二	二,110	一,660	一,660	0
稻賀	二	二,115	一,660	一,660	0
稻近成	二	二,120	一,660	一,660	0
稻白稻	二	二,125	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,130	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,135	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,140	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,145	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,150	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,155	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,160	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,165	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,170	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,175	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,180	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,185	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,190	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,195	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,200	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,205	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,210	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,215	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,220	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,225	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,230	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,235	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,240	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,245	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,250	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,255	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,260	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,265	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,270	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,275	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,280	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,285	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,290	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,295	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,300	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,305	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,310	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,315	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,320	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,325	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,330	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,335	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,340	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,345	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,350	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,355	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,360	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,365	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,370	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,375	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,380	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,385	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,390	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,395	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,400	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,405	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,410	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,415	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,420	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,425	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,430	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,435	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,440	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,445	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,450	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,455	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,460	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,465	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,470	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,475	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,480	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,485	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,490	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,495	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,500	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,505	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,510	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,515	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,520	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,525	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,530	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,535	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,540	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,545	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,550	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,555	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,560	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,565	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,570	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,575	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,580	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,585	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,590	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,595	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,600	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,605	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,610	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,615	一,660	一,660	0
稻元五郎	二	二,620	一,660</td		

品種名	作付反別	原種收穫高	各郡市農會配付數量	其他へ無償交付數量	残高
試作用取戻	、反二〇〇	、石三二	、石八三	、石一	、石二二
改良後	、反三五	、石八〇	、石一	、石一	、石八三
計	九七〇	六六四	一七八九	〇三〇	八八五
委 托 原 種 田					
品種名	作付反別	原種收穫高	各郡市農會配付數量	其他へ無償交付數量	残高
東 郷 二 號	、反一〇三	、石三三〇	、石二六六	、石一	、石二二
早 生 愛 國	、反〇七	、石二六六	、石一〇九	、石一	、石二七三
計	二〇〇	五六五	一三六	、石一	、石一

以上通シテ郡市配付總數量ハ十九石二斗六升四合ナリ

麥 蔟 作 ノ 指 導 奨 勵

麥 蔟 作ニ關シテハ前年度ノ方法ニ依リ各町村農會ヲ獎勵シテ設置セシメタル麥 蔟 作模範地ノ數漸次增加ヲ來シ地方ニ其ノ範ヲ示スモノ多シ又大正三年九月中時局ニ對スル增收獎勵ノ目的ヲ以テ麥作耕作標準ヲ印刷シテ一般當業者ニ配付シ技術者ヲ各郡ニ派遣シテ之ヲ指導セリ

堆肥及馬耕ノ普及ニ關シテハ年來多大ノ力ヲ盡シタル所ニシテ前々年度マテハ堆肥製造及馬耕ニ熟練シタル技術者ヲ各郡農會ニ駐在セシメ間断ナク受持區域ヲ巡回シテ實地指導ヲ爲シシメタルガ前年度ヨリ其方法ヲ改メ堆肥製造及馬耕ニ從事スル専任技術者ヲ設置スル各郡市農會ニ俸給ノ幾分ヲ補助シ從來ノ方針ニ依リ獎勵ヲ加フルコト、シ本年度亦同一ノ方法ヲ以テ極力指導獎勵ヲ加ヘタリ

副業ノ指導獎勵

本會ハ農家副業ノ發達ニ重キヲ置キ年來極力之ガ指導獎勵ニ努メタリ特殊事業、園藝獎勵種豚及種卵配付種子幹旋ノ如キハ其重ナルモノニシテ成績概シテ良好ナリ

養種園ノ經營

養種園ハ明治三十三年舊仙臺藩主伊達伯爵家ニ於テ舊領内ノ農事園藝ノ改良ニ資スル目的ヲ以テ創立セラレ多大ノ資ヲ投ジテ年々穀菽、果樹、蔬菜ノ新種ヲ輸入移入シ試作ノ上成績佳良ノモノヲ選擇シテ其種苗ヲ造成シ一般ノ需ニ應ジテ配付スルコト十有五年其成績寔ニ顯著ナリシガ本年同家ノ都合ニ依リ該園ヲ閉鎖セラル、コト、ナレルヲ以テ本會頗ル之ヲ遺憾トシ同家ニ交渉ノ上其土地建物ヲ無償ニテ借用シ其既ニ造成セラレタル種苗ハ勿論現ニ作付中ノモノ及農具其他ノ物品其一切之ヲ引受ケ事業全部ヲ繼承シテ之ヲ經營シ輸入移入ノ新種ハ悉ク之ヲ試作シ本縣内ニ適應スル純良ナル果樹蔬菜ノ種苗ヲ造成シ又農商務省種畜場ヨリ種豚ノ拂下ヲ受ケ之カ蕃殖ヲ行ヒ以テ優良種ノ普及ヲ圖リ其他麥菽、蔬菜、果樹ノ栽培ヲ研究シテ獎勵ニ資シ且ツ從來ノ如ク參觀者ニ對シ園内ヲ開放シテ實地模範ヲ當業者ニ示シ又見習

生ヲ置キテ園藝ヲ實修セシムル等ノ目的ヲ以テ大正三年八月追加豫算ヲ設ケ十一月ヨリ其事業ヲ開始セリ。園藝ノ指導ニ關シテハ養種園經營ノ外管内八ヶ所ニ當業者ヲシテ果樹試驗地(梨園七ヶ所、桃園一ヶ所)ヲ設置セシメ病蟲害驅除豫防剪枝施肥等ノ實地試驗ヲ行ヒ擔任技術者ハ各時季ニ應ジテ出張ノ上實地指導ヲ爲シ極力其改良ニ努メタリ又蔬菜ハ葱頭種子ヲ無償交付シ又ハ原產地ヨリ白菜種子ノ共同購入ヲ斡旋シ其栽培ニ就テ前記擔任者隨時實地ニ出張シテ懇篤ニ教授シタル結果大ニ面目ヲ改メタリ。

種 豚 交 付

養豚事業ハ年々發達ノ傾向ナルモ未ダ一般ニ普及ノ機ニ達セズ種類亦良好ナラザルモノアルヲ以テ本會ハ數年前ヨリ之ヲ改良普及セシムルノ方法ヲ講シ各郡市農會ノ請求ニ應ジ純良ナル種豚ヲ無償交付シ其蕃殖ヲ圖リ本年度中交付シタルモノ十九頭ニ達セリ。

種 苗 交 付

養鶏業ハ農家ノ簡易ナル有利副業トシテ逐年盛況ニ向ヘツ、アルモ種類雜駁ナルノミナラス飼養法亦不完全ノモノ多シ依テ本會ハ本年度ニ於テ家畜改良普及ノ目的ヲ以テ各町村農會員ヲシテ家畜改良組合ヲ組織セシメ其請求ニヨリ縣下確實ナル養鶏家ヨリ種卵ヲ購入シテ之ヲ無償交付シ其數量四千二百六十個ニ達シタリ。

種 苗 配 付

本會ハ年來縣内適應種苗ヲ購入シ當業者ニ配付シテ種類ノ改良ヲ圖リ來リシガ前々年ヨリ葱頭改良ノ目

的ヲ以テ純良ノ種子(黃玉葱)ヲ原產地ヨリ購入シ登米、遠田、名取、宮城四郡ノ當業者ニ無償交付シ本會技術者ヲシテ栽培其他ヲ實地指導セシメタルニ其結果大ニ良好ナリシヲ以テ本年モ引續キ種子ヲ無償交付シ一層之ヲ獎勵シタリ從來本縣當業者ノ多クハ葱頭ハ地方ニ適應ヒザルモノトシテ殆ト之ヲ栽培スルモノ無カリシガ本會ノ獎勵以來漸次栽培者ヲ增加シ其栽培反別二町九反ニ達セリ。

又本會ニ於テ結球白菜ヲ原產地韓國ヨリ購入シテ篤農家ニ試作セシメタルニ成績佳良ニシテ年々栽培反別ヲ增加シ大正二年更ニ原產地支那ヨリ該種子ノ共同購入ヲ爲シ各郡市農會及當業者ニ配付シタリシガ其成績最モ良好ナリシヲ以テ本年度モ引續キ共同購入ノ斡旋ヲ爲シ其量一斗九升餘ニ達シタリ。

講 習 講 話 會

普通農事副業獎勵ニ關シ隨時技術員ヲ派遣シ講習講話會ヲ開催シテ當業者ノ智識啓發ニ努メ又軍隊農事講話ヲ爲シタリ。

下 級 農 會 ノ 表 彰

本會ハ前々年度ヨリ優良町村農會ノ表彰ヲ爲シ來ソシガ自他大ニ奮發心ヲ興起シ其效果大ナルモノアルヲ認ム本年度ニ於テ表彰シタルモノ左ノ如シ

亘理郡	逢隈村農會
牡鹿郡	蛇田村農會
宮城郡	利府村農會

會 報 ノ 發 行

每月定期一回發行ヲ爲シ農事上必須ノ事項ヲ掲載シ農事改良發達ノ一助ニ資セリ

二〇〇

本會ハ斯業ノ改善振興ヲ圖ル目的ヲ以テ左ノ通補助金ヲ交付シタリ
補 助

一、普通補助

二、特殊事業補助

三、技術員設置補助

四、家禽協會補助

以 上

雜 誌 錄

◎實業視察

縣下產業ノ開發振興ニ關シ當業者ヲシテ先進地方ノ產業狀態ヲ視察セシメ彼我ノ長短ヲ自覺的ニ比較研究セシムルハ極メテ緊要ノコトタルヲ認メ本年度ヨリ之ニ要スル費用ヲ縣費豫算ニ計上シ實業視察員ヲ嘱託シテ各先進地ニ派遣シ實際ノ狀況ヲ視察セシメタルニ其ノ效果頗ル大ナルモノアリ

各視察員ノ視察事項及派遣地名等ハ左ノ如シ

大正三年度實業視察員視察事項概目並派遣地名

視察事項(概目)	派遣地名	旅費付額	住所	氏名
米	山形縣	二〇	桃生郡赤井村	齋藤仁太郎
米	新潟縣	二五	栗原郡金成村	菅原淵三郎
米	千葉縣、埼玉縣	二五	柴田郡船岡村	和藤三郎
豆	茨城縣	二五	宮城郡高砂村	菊地勝次郎
麥	福島縣	二五	遠田郡田尻町	勝利吉郎
養	山形縣	二五	刈田郡大平村	勝利吉郎
糞		二〇		

◎内地移住民

大正三年中ニ於ケル北海道移住者數ハ千六百七十六人ニシテ前年ニ比シ千四百四十三人ノ減少ヲ示セリ又樺太移住ノ爲汽車汽船賃ノ割引券ヲ下附シタル件數ハ二十四件人員四十八人ニシテ之ヲ前年ニ比スレバ件數ニ於テ十五件人員ニ於テ三十八人ノ減少ヲ見ル今之ヲ郡市別ニ表示スレバ左ノ如シ

北海道移住者並歸還者調査表
〔大正三年〕

(大正三年)

於ケル明治初年以降ノ開墾地ニシテ事實上新ニ

本縣内ニ於ケル明治初年以降ノ開墾地ニシテ事實上新ニ一部落ヲ爲シタルモノ、内凡ソ戸數三十戸以上又ハ面積五十町歩以上ノ地ニ就キ調査シタルニ其ノ狀況左ノ如シ

第一、名稱及所在地

品方酒開港地
ノ

第二、事業經營者

品力酒力營銷總合

品井沼開墾地面積

新編
卷之十七
九月廿四日
十七年

堤外五百八十三町歩 河川並路水路等ノ敷地百三十三町歩

內 譯

田
九百十九町四反五步

百二十九町八反九畝二十二步

宅地二十四町四反五畝步

堤内町村別地目別内譜

地目貸付反別既開

卷之二

大松澤村		田地	宅地	計
計	計	六〇〇	六〇〇	一九、六七〇七
一、〇七三、七四二七	七六、〇六二九	一	一	七六、八八二七
一六、二四二三	五六、三九三三	一	一	五六、三三二三
一八七、五〇〇五	一九、六七〇七	一	一	一八、七五〇〇
一、四二七	三三			
通住者戸數 移住戸數				
人口				
八三三人				

方聞鑑其人極有才氣，其詩及文集，一見其才，如見其人。

開墾前ニ於テハ沼地ハ沿岸村民農閑ノ際海老雜魚等ノ漁業地トシ原野ノ部分ハ葭葦生地等トシテ使用シタリ而シテ此地未墾地トシテ存シタル事由ハ平時ニ在リテモ吉田川及沿岸各村ノ川水等集注シ爲メニ一大沼湖トナリ其排水路ハ僅カニ元祿年間ニ松島灣ニ排出スペキ目的ニテ掘鑿シタル二個ノ潜穴ト鳴瀬川ニ排水スペキ小川トノニ二途アルモ潜穴狹少ナルト鳴瀬川底漸次隆起ノ結果排水ノ効用ヲ失スルニ至リ爲メニ支配水量ヲ適當ニ排除スルコト能ハザル狀態ニシテ益々排水ニ困難ヲ來シタルモ工事至難ニシテ巨額ノ工費ヲ要スル結果起工ノ運ビニ至ラザリキ

第五、移住開墾ノ方法及經過

一、移住開墾ノ着手年月及經過

曩ニ水害豫防組合ヲ設ケ三十九年三月附帶工事ニ着手シ四十三年十二月隧道工事ヲ竣工シ通水スルニ至リシモ尙自然排水ノ効果ヲ大ナラシムルコト肝要ナルト土地改良上四十四年三月耕地整理組合ヲ設立シ之ガ開墾事業ヲ經營セルモノニシテ今ヤ工事ヲ完成シ成功ノ途ニ付キ地方富源ヲ開發スルニ至レリ

二、經營者ニ對スル公私ノ保護

組合債九十萬圓ニ對スル据置中ノ利子ノ内ニ充當スベキ爲メ金十六萬八千圓ノ縣補助ヲ受クルト組合債ニ對シ縣ノ補償アルノミナリ

三、移住方法等

移住民ハ團体移住ト個人移住トノ二種アリ團体移住民ノ結合方法ハ各團体大同小異ニシテ要ハ團員相互ノ互助方法ト勤儉貯蓄ノ獎勵トヲ主トセルモノ、如シ而シテ移住前ノ職業ハ概ネ農ナリ居住地方ハ縣外ハ山形縣最モ多クシテ縣内ハ黒川、宮城、栗原郡ノ各地ナリ

四、經營者ガ移住民招致ノ爲採リタル方法

招致方法ハ組合債償還(三十ヶ年)後ニ至レバ組合有地ノ小作人ヘハ耕地ノ全部ヲ無償讓與スルコト又組合ニ於テ地主ヨリ借入タル土地ノ小作人ヘハ三十ヶ年後ニ至レバ其土地ヲ返還セシメ組合ヨリ土地購入資金トシテ一反歩ニ付四十圓以上百圓以下ヲ交付スルコト、セリ

五、移住後ニ於ケル開墾及移民ノ狀況並經營者ノ施設

開墾地ハ殆ト全部成功シ移住民ハ無事耕作ニ從事シアリ

經營者ノ施設トシテハ開墾地ノ維持管理ノ爲堤防ヲ築造シ尙道路用排水路ノ補修並農業技術者ヲシテ改良發達ヲ督勵シツ、アリ

第六、移住開墾ノ成績及現狀

開墾ノ狀態ニ關シテハ前述ノ如ク進捗シ就中地味肥沃隨テ培養容易ニシテ本年度ノ成績ノ如キハ其植付反別田六百三十町餘ニシテ之レガ見込收穫ハ少クセ一萬石ヲ算シ得ベク畑作ニ於テモ一反歩平均麥二石五斗大豆一石五斗ノ實績ヲ見タリ

第七、其他經營者ニ於テ經驗シタル所ニシテ參考トナルベキ事項 經驗ナシ

二、中田沼開墾地

第一、名稱及所在地

中田沼開墾地ト稱シ本縣登米郡上沼村同郡石森町及岩手縣西磐井郡ニ跨リ其中間ニ在リ

本縣登米郡

第三、現在地目別並所有別面積、職業別戸數人口

(但シ農家ハ自作、小作、自作兼小作別)

現在地目ハ全部田地ニシテ其面積四百六十一町二反五畝二十九步ナリ

右耕作方法ハ全部小作ニシテ目下小作人七百十三名ヲ有ス

第四、開墾地ニ於ケル土地利用ノ状況及當時未開墾地トシテ存ヒシ理由

中田沼ハ登米郡最高水田ノ上位ニ堤塘ヲ圍繞シテ築造セル人爲的貯水池ニシテ其水源ハ明和年中北上川西岸上沼村大字大泉字小名倉山々腹ニ北上川低水以上丈餘ノ位置ニ潜穴ヲ掘鑿シ川水ヲ注入シタルモノニシテ之ヲ貯水シ登米郡上沼石森寶江ノ三ヶ村及同地近村ノ灌溉用水ニ（灌溉反別千五百三十町）使用セシメタリ故ニ寶江村ノ内四百町歩ハ明治二十年三方島注入用水工事完成シ之ヨリ灌溉スルニ至リ其他ハ明治四十年蒸氣唧筒上水法ニ依リ北上川ヨリ揚水灌溉用ニ使用セラレザル前ハ開墾スルコトヲ得ザリシナリ

第五、移住開墾ノ方法及經過

一、移住開墾ノ着手年月及經過

明治四十一年隣村及隣郡ニ移住開墾ヲ勧誘シ同年五月ヨリ開墾ニ着手シタルモノ移住者ノ多クハ無資本者ナルノミナラズ開墾地ハ田地ノミナルヲ以テ労力ノ分配水害ノ影響等均衡ヲ缺クノ結果半途退去シタルモノ多ク僅カニ米價ノ騰貴及郡ニ於テ移民舍ヲ建設シ無償貸付ヲ爲シ且肥料ヲ貸與シ其他農閑ヲ利用セル同開墾地内ノ修繕工事等ニハ特ニ移民ヲ出役セシメ相當賃銀ヲ與ヘタル等保護獎勵ノ結果十四戸移住セシメ隣村常住者ノミヲ以テ殆ト小作開墾スルニ至レリ

二、經營者ニ對スル公私ノ保護

該當ノ事實ナシ

三、移住方法及移住民ノ移住前ノ職業及居住地方

當開墾地ノ移民ハ全部各個移住ニシテ移住前ハ何レモ農業ニ從事シタルモノ、ミナリ而シテ其居住セシ地方ハ大部分登米郡民ニシテ其一部ハ岩手縣東西磐井郡民ナリ

四、經營者ガ移住民招致ノ爲採タル方法

郡外ニ對シテハ該郡長ニ依頼シ郡内ハ吏員ヲ派シ勸誘シ移民舍ノ無償貸付肥料ノ貸與等ヲ行ヒタリ

五、移住後ニ於ケル開墾及移民ノ状況並經營者ノ施設

以上ノ如クナルヲ以テ移住後ニ於ケル開墾ニ關シ特記スペキコトナク目下移民ノ状況ハ何レモ一戸當リ一町乃至三町歩余ヲ耕作シ相當ニ生活シ居レソ經營者ハ中田沼開墾地移民ノ爲メニ農業技術者ヲシテ其指導ニ當ラシメツ、アリ

第六、移住開墾ノ成績及現況

前述ノ通ニシテ特記スペキコトナシ

第七、其他經營者ニ於テ經驗シタル所ニシテ参考ト爲スペキ事項

一、中田沼開墾工事費一覽

總工費 金拾四萬貳千五百六拾貳圓六拾九錢七厘

内 譯

費 目	金 額	備
土工費	一九、九九三 <small>四</small> 六〇八	小名倉山隧道穿鑿一ヶ所延長百三十一間幅二間石垣十一ヶ所延長八十間槽工延長三百間水路開鑿及改修延長四千四百八十二間

費目	金額	備考
橋樑管費	一八、四〇五、八四三	北上川堤防大水門石造樋管内法一間ニ門延長二十間外二十七ヶ所
貯水池費	五〇三、一七〇	十一ヶ所橋梁
土地費	五一、七四八	貯水池長五間幅三間一ヶ所
料費	二、三三三、一〇六	水路敷地及唧筒場敷地買賣費
料費	二八五、〇〇〇	家屋樹木井戸等移轉料
料費	一七〇、二〇〇	事務所其他借家損料
料費	五九〇、一〇〇	蒸汽唧筒設置費
料費	五五、二三四、六〇〇	測量費
料費	五〇六九、三四六	技術手其他雇員等給料手當旅費等
料費	二、六一、六八八	諸雜費
計	一四二、五六二、六九六	施工費 廢沼反別五百四十一町一反一畝二十五步開墾費

二、中田沼開墾地成績表

年次別	作付反別	収穫高	小作徵收高	同上換算金	小作人員
明治四十一年	二〇七、七二九	二九、八四五	二〇一、九七一	一、三五、七〇三	一六三
同四十二年	三〇三、二七五	二、八八、三九七	二〇六、七四二	五八八、三八五	一六九
大正元年	三五、一三九	二四、五〇六	二〇一、九七一	一、三五、七〇三	一六三
同二年	三八、五〇八	三八、四〇三	二〇二、一五〇	五八八、三八五	一六九
	四四、〇九九	二〇二、一五〇	八八、八五五	一五〇、五、六八三	一六三

年次別	作付反別	収穫高	小作徵收高	同上換算金	小作人員
同四十三年	三八、五〇六	一八四、六八二	四八七、六九	六、三四〇、〇七九	一六三
同四十四年	三五、一三九	二四、五〇六	九四、三〇〇	一三、二七、四九〇	一六三
大正元年	三八、五〇八	三八、四〇三	一〇五、八四〇	二〇、四四、〇三二	一六四
同二年	四四、〇九九	二〇二、一五〇	八八、八五五	一五〇、五、六八三	一六四

三、角田上水溜池開墾地成績表

第一、名稱及所在地

角田上水溜池開墾地ト稱シ伊具郡角田町西南端ニ在リ

第二、事業經營者

伊具郡角田町

第三、現在地目別並所有別面積、職業別戸數人口

現在地目ハ田地ノミニシテ其面積百十一町九反歩ナリ而シテ之ヲ耕作スルモノハ角田町及其附近ノ

家ニシテ小作人二百二十一戸ナリトス

第四、開墾前ニ於ケル土地利用ノ狀況及當時未開墾地トシテ存セシ理由

同開墾地ハ以前大沼、赤沼、船沼、無鉢木ノ四沼ニシテ伊具郡角田、櫻、北郷ノ一町二ヶ村地内水田
 反別約四百四十町歩ニ灌漑スペキ貯水池ナルト角田市街ニ於ケル日常使用水並ニ火防用水ナリシト阿
 武隈川水位低キ爲メ容易ニ水源ヲ求ムル能ハズシテ巨額ノ工費ヲ要シ之ニ伴フ收益相償ハザル等其時
 機ヲ得ズシテ起工ノ運ビニ至ラザリシ爲廢沼タルコトヲ得ズシテ開墾スルヲ得ザリキ

第五、移住開墾ノ方法及經過

本開墾地ハ移住開墾ニ因ラズ地方農民ヲシテ耕地整理法ニヨリ開墾セリ

一、開墾ノ着手年月及經過

前述セル如ク起工シ得ザリシ阿武隈川底漸次隆起ノ結果同郡館山村坪石ニ於ケル低水ト相當ノ落差ヲ生ズルニ至リシ故自然流下法ニヨリ水路ヲ開墾シ(角田上水ト稱シ)水下反別一千町歩ニ對スル農富ナル用水ヲ供給スルニ至リシヲ以テ四十三年廢沼ニ來シタル大沼及三ヶ沼ニ試作セシモ水利ノ關係上充分ナル結果ヲ得ルニ至ラザリシヨリ四十四年四月耕地整理施行ノ法ニヨリ三ヶ年繼續事業トシテ開墾ヲ行フニ至レリ現在ニ於テハ用水潤澤ナル良田トナリ其成績佳良ナリトス

二、經營者ニ對スル公私ノ保護

上水路ノ計劃耕地整理ノ設計調査等ニ對シテハ縣技術者ノ補助ヲ得又工事費ニ對シテモ相當ノ補助金ノ交付ヲ受ケタリ

三、移住方法等

該當ノ事實ナシ

四、經營者ガ移民招致ノ爲採タル方法

該當ノ事實ナシ

五、移住後ニ於ケル開墾及移民ノ狀況並經營者ノ施設

該當ノ事實ナシ

第六、移住開墾ノ成績及現狀

該當ノ事實ナシ

第七、其他經營者ニ於テ經驗シタル事項ニシテ参考トナルベキ事項ナシ

四、大街道開墾場

第一、名稱及所在地

移住開墾ノ當初ハ士族授產場ト稱シタルモ現今ニ於テハ單ニ大街道開墾場ト通稱シ牡鹿郡石巻町大字大街道ニ在リ

第二、事業經營者

企業當初ハ仙臺藩士細谷直英ニ依リ企畫セラレタルモノニシテ後藩士移住者各人ニ配付シ監督經營セルモ其後監督者ノ二三交替ノ後個人ノ所有ニ歸シタルヲ以テ敢テ監督者ノ要ナキニ至ソ各自經營ヲ爲ス

第三、現在地目別並ニ所有別面積、職業別戸數人口 (但シ農家ハ自作、小作、自作兼小作別)

地目別並所有別面積

地目別	所 有 面 積	轉 賣 面 積	計
田	六九	五七	
			三六六

地 目 別	所 有 面 積	轉 賣 面 積	計	
			烟 其 他	三、二 八、六 五、七
職業別	戶數	人口	職業別	戶數
自作	八	壹	自作	八
小作	二	二	小作	二
自作兼小作	三	一三	自作兼小作	三
計	三	二〇三	計	二〇三

備考

所有面積ハ移住者ノ現存スルモノノミニシテ其後轉住者ノ跡地又ハ隨時移住セルモノニ十二月九拾八人アリ

第四、開墾前ニ於ケル土地利用ノ状況及當時未墾地トシテ存セシ理由

開墾前ハ不毛ノ原野及沼湖等ニシテ何等利用セズ未墾ノ事由ハ人烟稀薄ノ原因ナリトス

第五、移住開墾ノ方法及經過

一、移住開墾ノ着手年月及經過

明治十二年三月着手同十三年四月各移住者ヲ收容ス

二、經營者ニ對スル公私ノ保護

牡鹿郡石巻及蛇田村桃生郡赤井鷹來兩村ニ介在スル官有荒蕪地二百餘町歩及石巻富豪戸塚貞輔ノ上地ニ係ル既墾地二十町歩未墾地三十餘町歩ヲ無償拂下ヲ受ケタリ

三、移住ノ方法及移住民ノ移往前ノ職業及居住地方

團体移住ニシテ移住民ハ仙臺藩士族トス

四、經營者ガ移住民招致ノ爲採リタル方法

土地家屋及農具ノ一部ヲ無償給與ヲ爲シ移出セシメタリ

五、移住後ニ於ケル開墾及移民ノ状況並經營者ノ施設

移住後ニ於テ開墾セルモノ百五十町餘ニシテ其他ハ山林及秣草場トス

移民ハ移住ノ當初戸數六十三戸ナリシモ現住者ハ三十一戸ニシテ其他ハ中途轉賣シテ他業務ニ從事

セリ而シテ現住者ハ精農ニシテ相當ノ生活ヲ營ミ居レリ

經營者ノ施設移住ノ當初ハ一戸當リ豫定開墾地田四反歩畠一町歩ヲ配付シ其他勤勉ナルモノニハ任

意開墾ノ自由ヲ與ヘ精勤者ヲ獎勵セリ

第六、移住開墾ノ成績及現狀

開墾ハ殆ンド豫定ノ實績ヲ見ルニ至リタルモ生活状態ノ變遷ニヨリ多クハ地主ノ併合ヲ受ケ目下開墾

當時ノ移住者ノ所有ニ屬スルモノ約二割弱ニ過ギザルノ状況ナリ

第七、其他經營者ニ於テ經營シタル所ニシテ参考トナルベキ事項ナシ

五、長靜開墾場

第一、名稱及所在地

長靜開墾場ト稱シ亘理郡吉田村ニ在リ

第二、事業經營者

亘理郡吉田村 安田忠平

第三、現在地目別並所有別面積、職業別戸數人口

現 在 地 目 別	面 積
田 反 別	二十五町六反步
畑 反 別	七十三町歩
宅 地 反 別	二町三反四畝步
山 林 反 別	二町八反步
原 野 反 別	一町五畝步
計	百四町二反九畝步

所有別面積殆ト現住移民ノ所有ニ屬セルモノトス之ヲ面積ニヨリ區別スレバ
八町歩以上ヲ有スルモノ 二人

二町以上四町歩以下ヲ有スルモノ

十七人

一町歩以上二町歩未満ヲ有スルモノ

十六人

五反歩以上一町歩以下ヲ有スルモノ

三十人

五反歩以下ヲ有スルモノ

二十五人

職業別 戸數 人口

自 作 五戸

小 作 五戸

自作兼小作 十七戸

計 三十二戸

人 口 百六十五人

第四、開墾前ニ於ケル土地利用ノ状況及當時未開墾地トシテ存セシ事由

開墾前ニ於テハ概ネ林場ニ利用シタルモノニシテ當時未開墾地トシテ存セシハ人口ノ不足ト藩政時代

ニ於テハ農家ニ對スル高割夫役ノ嚴重ナリシ爲メ多クノ土地ヲ所有スルヲ厭ヒタル結果ニシテ明治九年官有地ニ編入シタリシニ由ル

第五、移住開墾ノ方法及経過

一、移住開墾ノ着手年月及経過

明治十四年十二月惜陰社(株式組織ノモノ)ニ於テ官有地ノ拂下ヲ受ケ開墾ニ着手セシモ成功スルヲ得ズシテ中途廢墾スルノ止ムナキニ至リタルヲ以テ明治十八年二月開墾地ト未開墾地トヲ併セテ株

主ニ分配シテ一先ヅ該社ノ解散ヲ告グルニ至リ後各個移住ヲ勧誘シ開墾セリ。

二、經營者ニ對スル公私ノ保護 該當ノ事實ナシ

三、移住ノ方法及移住民ノ移住前ノ職業及居住地方

惜陰社解散後其事業ヲ繼承シテ經營スルモノナキニ至リタルヲ以テ荒廢セントスル成墾地ノ管理及未開墾地開墾等ノタメ郡内各町村ヨリ農業者ヲ誘導シテ各個移住ヲ爲サシメタリ

四、經營者ガ移住民招致ノタメ採リタル方法

明治二十七年安田忠平ハ逐日成墾地ノ荒廢シ亦開墾ニ從事スルモノナキニ至リタルヲ憂ヘ右ハ労力ノ缺乏ニ在ルヲ考ヘ移住民ノ誘致ニ盡瘁シ東奔西走株主ニ懇請シテ土地ノ無償配付ヲ受ケ移住民ノ増殖ヲ圖リ今日ノ成績ヲ見ルニ至レリ

五、移住後ニ於ケル開墾及移民ノ狀況並經營者ノ施設

惜陰社ニ於テ開墾シタル面積二十五町歩廢墾シタル未開墾ノ面積六十九町七反九畝歩ニシテ是等ハ主ニ移住者ニ於テ開墾ニ從事シ耕地實地等ニテ一百町九反步餘ヲ算スルニ至レリ而シテ主導者安田忠平ハ移住民ニ對シ資金ノ融通其ノ他出來得ル限リノ保護獎勵ノ便宜ヲ與ヘタリ該部落ハ其地味穀菽ニ適スルハ勿論果樹又ハ蔬菜ノ栽培ニ適シ其收穫大ニ見ルベキモノアリ將來有望ノ部落ナリトス

第六、移住開墾ノ成績及現狀

開墾ノ成績及現狀ハ最モ優良ニシテ將來有望ノ地トシテ他ヨリ羨望セラル、ニ至レリ

第七、其他参考トナルベキ事項ナシ

大正五年四月十七日印刷
大正五年四月二十日發行

宮城縣內務部

印刷者 殷野七郎

仙臺市南町四十二番地

仙臺市南町四十二番地
(電話六〇一番)

印刷所 東北活版社

14
21
9

終

